

「宮城県文化芸術振興ビジョン（第3期・中間案）」に対する意見提出手続（パブリックコメント）の結果と御意見・御提言に対する宮城県の考え方

令和3年2月12日

宮城県では、「宮城県文化芸術振興ビジョン（第3期・中間案）」について、令和2年10月30日から令和2年11月30日の間、ホームページ等を通じ県民のみなさまの御意見等を募集しました。この結果、7人、1団体から合計45件の貴重な御意見・御提言を頂きました。御協力ありがとうございました。頂きました御意見等に対する宮城県の考え方につきまして、以下のとおり回答いたします。

番号	章 項目	御意見・御提言の内容（要旨）	宮城県の考え方
1	1 3	5年間のビジョンということで、中期的視点で考えることができ、より具体的な計画を作成することができると思うので良いと思う。5年間では達成できない大きなビジョンもあると思うので、長期的視野も同時に持ちつつ計画を考えることも必要だと思っている。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
2	1 5	「文化芸術は、人々に感動や精神的な安らぎをもたらす…」とあるが、安らぎだけではなく、良い意味で畏怖の念を抱かせるのも文化芸術の一つの側面である。文化芸術における、人と違うことへの違和感も大切な感性であり、自分を見つめ直すきっかけになるので、そのような文言も加えてほしい。	御意見を踏まえ、文化芸術を振興する意義の捉え方に幅を持たせた表現に改めました。
3	1 5	現「文化芸術は、新たな需要や高い付加価値を生み出し、多くの産業の発展を担う側面を有しており、地域経済の発展に寄与する可能性を」を新「文化芸術は、さまざまな産業の発展を促し、地域経済の発展に寄与する側面を持つとともに、新しい価値像を提示し、歴史を再評価しつつ未来を拓く可能性を持っています。」としてどうか。現行案では、価値論が経済的側面に偏り、一面的である。文化芸術とは、いまだ評価されないものにも挑む特質があるからである。	文化芸術の本質的価値と社会的・経済的価値を4つの意義によって説明しているものであり、経済的側面に偏っているものではありません。
4	2 2	少子化、高齢化という状況のもと、施設の統合などを推進しているが、SDGsとの取組としては逆行する部分もあると考える。状況の後追いではなく、施設を見直し文化振興の視点での活用方法等の新しい提案は、多くの人が共感できるストーリーを持つのではないかと。美術館移転問題に際し、多くの人が声を上げたように、これまで培ってきた文化振興の精神がこれまでにない運動へと発展したと思う。歴史的な観点を重要視し次世代へつなぐことは、新しい施設やビジョンを示すことばかりではないと考える。そのような精神的な部分からSDGsの考え方がマッチしていくと思うので、宮城県が文化的な部分からSDGsが語られるような規範をみせてはどうか。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
5	3 1	みやぎ県民文化創造の祭典（芸術銀河）の存在を知らなかった。芸術銀河として一本化して開催することのメリットが不透明である。行政や各団体の連携・協力の様子を県民が知る機会が少なく、情報発信の仕方を見直すべきではないかと。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
6	3 1	若手芸術家育成事業の実施について、県内高校生に対する取り組みも大切であるが、若い世代のアーティスト（プロ）、デザイナー、研究者など、芸術関係の専門家への支援も必要である。また、芸術家の育成はある世代だけを特化しても成立しないので、様々な世代における支援や、交流の場を設定する必要がある。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
7	3 1	新型コロナウイルス感染拡大に伴い実施した「トモンビ・プロジェクト」は、この状況下における芸術家を支えるという意味においても、この状況下における宮城県在住アーティストが実施した取組のアーカイブ機能としても、とても有意義な事業だと感じているので、これについてもきちんと記載した方が良いと感じた。また、今後も継続して欲しい事業だと思っている。	御意見を踏まえ、「第2章 2 社会情勢」に「トモンビ・プロジェクトの取組について」追記しました。

番号	章 項目	御意見・御提言の内容（要旨）	宮城県の考え方
8	3 1	<p>これまでの実績を述べているが、動員数が増えているとは思えない。情報伝達や周知、魅力の発進力が乏しいのではないか。また、「やった実績」の数ではなく、そこに伴って県民の文化度が上がるような取組にするには、ソフト面の支援が必要ではないか。</p> <p>実績の数値としては表しにくい場合もあるが、例えば美術館の創作室の活用など取組を良い事例として発信・宣伝すべきではないか。ソフトにお金をかけない予算措置では文化振興は難しいと思う。ハードではなくソフト、人材育成にお金を使ってほしい。</p>	<p>今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。</p>
9	4 2	<p>方針1～3の「～アウトカム指標を用いた総合的な評価に努めます。」という記載から、新しい評価基準を作るといように捉えたが、この第3期の5年間をかけてでもしっかりと新しい評価基準を作成して欲しい。そのための具体的な計画を期待している。</p>	<p>今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。</p>
10	4 2	<p>アウトプット指標として掲げられている指標項目が既存事業しかない。様々な分野との連携の視点が重要なのであれば、もっと多様な評価軸が必要ではないか。県内各地の小規模なギャラリー（民間）での展覧会やアートイベントに加えて、若いアーティストがSNSやオンライン上で発信することで、一般市民が広く参加し、まちづくりにも繋がるような参加型の活動など、従来とは違う形の芸術活動において、支援・評価する仕組みを設けるべき。</p>	<p>今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。</p>
11	4 2	<p>コロナ禍で直接の来場、参加が難しくなるなかで、測定単位は見直しが必要ではないのか。</p>	<p>第3期ビジョンの期間は5年であり、5年間の進捗状況を把握するためには、記載の測定単位が必要だと考えております。</p>
12	4 2	<p>ある意味で文化芸術の敷居を下げて、多くの人々に機会を提供するのは大切なことではあるが、肝心のアーティストや芸術家（特に個人で活動を展開している方々）に対する方針がない。舞台や美術のワークショップ、音楽アウトリーチにおいては、単純に参加者数だけで測定するのではなく、アーティストがどのように関わったのかも評価すべきではないか。また、例えば、新しい文化芸術活動が幾つ生まれたのか、なども指標としては重要ではないか。</p>	<p>第3期ビジョンは参加者数などのアウトプット指標だけではなく、アウトカム指標を用いた総合的な評価に努めることとしております。</p> <p>御意見をいただいた指標につきましては、今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。</p>
13	4 2	<p>無形文化財についても記載されているが、郷土芸能実施者は自身が「芸術家」という認識は少ない。継承を考えた時に、郷土芸能実施者の把握においてどのような調査方法を考えるのかは課題ではないかと感じた。</p>	<p>今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。</p>
14	4 2	<p>現「特色ある地域文化等、地方・都市部それぞれの地域に伝わる有形・無形の文化資源を活用して、地域コミュニティの再生、活性化を図っていく」を 新「特色ある地域文化や生業等、地方・都市部それぞれの地域に伝わる有形・無形の文化資源・遺産をひろく連関的に調査・保存・活用して、地域文化の価値醸成や地域コミュニティの再生、活性化を図っていく」 としてはどうか。文化資源が活用主義になったのは周知の事実だが、資源そのものや表現者の疲弊は危機的で、その調査・保存は急務である。</p>	<p>御意見を踏まえ、「第4章 2基本方針」を次のように修正しました。</p> <p>「特色ある地域文化や生業等、地方・都市部それぞれの地域に伝わる有形・無形の文化資源を調査・保存・活用して、地域文化の価値醸成や地域コミュニティの再生、活性化を図っていく必要があります。」</p>

番号	章 項目	御意見・御提言の内容（要旨）	宮城県の考え方
15	4 2	「文化芸術を創造・発表・享受できる」ことは権利であって義務ではないと思っている。そうした時に、障害者や外国人（違う言語）等にどのように情報を提供できるのかを考えなければならないと感じている。例えば、この作成する芸術振興ビジョンは、視覚障害者や日本語ができない方に対して何かしらの対応を考えているのか？こういった情報をまずは「あらゆる人」に届け、一緒に考えていく姿勢が必要なのではないかと感じている。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
16	4 2	現「子供から高齢者、障害者や県内在住の外国人など全ての県民が、生涯を通じて居住する地域にかかわらず等しく文化芸術を・・・」を新「初等・中等・高等教育においても文化芸術をより多面的に採り入れ、創造性を養うとともに、子供から高齢者、障害者や県内在住の外国人など全ての県民が、生涯を通じて居住する地域にかかわらず等しく文化芸術を・・・」としてはどうか。こうした教育が減ったことは、主体性ある県民育成と逆行すると危惧されるからである。	学校教育については、「第5章 7文化芸術に触れる機会づくり（2）」において、記載しております。
17	5 -	第4章2基本方針に記載されている「総合的な評価」は新しい視点の評価基準を作成するという意味で捉えているが、施策の中に「新しい評価基準の作成」がどこにも記載されていない。記載すべき事項だと考えている。	今後の具体的な取組の中で、指標について検討してまいります。
18	5 -	『文化芸術・人・社会の「高」循環の創出』とあるが、そこで一番期待されるのが自治体内の各部署間の「高」循環の創出だと感じている。まずは何よりも先に自治体内での協働・連携をどのように作っていくのかを示していただきたい。例えば、観光についての予算や福祉・教育についている予算の中から、文化芸術に対しての事業を創出することができる基盤が自治体内でできているのか？そのあたりの現状と展望を示していただきたい。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
19	5 1 (2)	②後段「新たな核となる～」の内容は、共生社会の実現とやや関連性が薄いように思われる。共生社会を実現するために、どのような団体が必要なのか伝わらなかった。また、「コミュニティ」と「団体」というのは共生社会を考える上で、区別して使用される概念・言葉だと思うが、共生社会の実現のためにどちらがどのような役割をはたすのかを書き加えるとよいのではないか。	御意見を踏まえ、「第5章 1 社会課題等に対する文化芸術の活用（2）②」を次のように修正しました。 「文化芸術を通じて、社会包摂に理解のあるコミュニティの形成を牽引していくような団体の活動を支援するよう努めます。」
20	5 2 (1)	④「まちのギャラリー化、文化街区の形成等…」とあるが、現在民間や個人レベルで運営している小規模ギャラリー等の活動をもっと積極的に支援すべきではないか。行政が機会を提供するだけでなく、すでにある自発的な取り組みをフォローする仕組みが必要。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
21	5 2 (2)	④大学との連携の記述のところに人材育成面や教育に対する支援について書かなくて良いのか。「地域力の向上」は人がいることではじめて成り立つものである。 また、（2）の記述は産業・経済的側面に偏りすぎていると感じる。「地域力」ではなく、産業・経済力と書くのであればまだわかるが、「文化の道具化」がすぎる記述は、文化振興のビジョンとしてはやや貧相ではないかとの思いもある。	御意見を踏まえ、「第5章 2文化芸術による地域の活性化（2）」を修正しました。 また、人材育成については、「第5章 6文化芸術活動の担い手の育成」において、記載しております。

番号	章 項目	御意見・御提言の内容（要旨）	宮城県の考え方
22	5 2 (2)	取組事例「● 伝統文化を継承する人材の育成」とあるが、育った人の活躍の場があるのか、どのようなロールモデルがあるのか、といった将来像と一緒に示さないと、育成は出来ないのではないか。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
23	5 3 (2)	交流に関わる人材育成・確保についての記述があったほうが良いと思う。	人材育成については、「第5章 6文化芸術活動の担い手の育成」において、記載しております。
24	5 4 (1)	「みやぎ県民文化創造の祭典（芸術銀河）」等の県内各地における企画をさらに充実させる…」とあるが、広報活動や情報発信にももっと力を入れて欲しい。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
25	5 4 (2)	②について、メディア芸術の振興と支援に努める理由が、観光・産業・経済的な観点でしか語られていないのはややビジョンとして貧しいのではないかと。海外にも影響力があるということで、マンガやアニメなども含む記述だと推察しましたが、大友克洋や荒木飛呂彦、石ノ森章太郎など極めてオリジナルで芸術性の高いアーティストを輩出している本県ですから、経済的な効果だけを記述するのではなく、マンガ・アニメ等メディア芸術の芸術性を県として称揚するような記述があってもいいのではないか。文化に向き合う品位が問われる部分かと思う。（仮にこれがメディア芸術としてのゲームで、たとえば「ポケモン」などを念頭に置いているとしても、それを生み出したクリエイティビティの文化的価値について記述があってもいいのではないかと）	御意見を踏まえ、「第5章 4文化芸術の振興（2）②」を次のように修正しました。 「我が国のメディア芸術は、世界的にも高い評価を得ており、日本の文化に対する海外からの関心を高める媒体であるとともに、コンテンツ産業の活性化や観光資源として地域振興等にも大きな効果を発揮することから、その振興に努めます。」
26	5 4 (2)	②「…メディア芸術への振興と支援に努めます。」とあるが、メディア芸術は技術の移り変わりが早い分野でもある。作品をどのように保存・記録して後世に伝えていくのか、作って終わりではなくアーカイブの方法も一緒に検討してもらいたい。また、メディア芸術の価値を評価する評論家や研究者への支援も必要である。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
27	5 4 (2)	取組事例の「SNSやVRなどを活用」というのは、あまりに些末な事例ではないか。これは観光担当部署が個別ケースに対して考える内容であり、文化担当部署としては、芸術作品と地域資源を組み合わせた魅力の発信など、イメージを広く持てるような記述とすることはできないものか。	御意見を踏まえ、当該取組事例を、「第5章 2文化芸術による地域の活性化（2）」の取組事例に修正しました。
28	5 5 (1)	②伝統文化の「発表機会の拡充」のほかに、「価値を伝える取り組み」と加えてはどうか。価値を伝える方法は講座や展示など多様な手法がある。	御意見を踏まえ、「第5章 5地域文化の振興と継承（1）②」を次のとおり修正しました。 「発表機会の拡充など、伝統文化の価値を伝えるための取組に努めます。」
29	5 5 (1)	③「…、伝統文化の後継者や、文化財等の保存技能者の育成に努めます。」とあるが、直接の担い手だけでなく、担い手を支える専門家や研究者への助成も必要ではないか。後継者の孤立化を防ぎ、モチベーションを維持するための支援を実施するべきである。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。

番号	章 項目	御意見・御提言の内容（要旨）	宮城県の考え方
30	5 6 (2)	アーティストや芸術家の活動支援は、最も重要な方針の一つにも関わらず、重点取組の●がないのはなぜか。発表機会の提供や顕彰も大切なことではあるが、制作を継続していくために必要な助成や、積極的に作品を購入するといった、より具体的な支援策も必要である。サポート体制がしっかりしていることが分かれば、次世代の芸術家も安心して、創作活動に専念することが出来る。	重点取組が心の復興であるため、取組事例の記載を全体的に見直し、具体的な事業名を記載するように修正するとともに、個々の取組事例について、重点取組を明示しないよう修正しました。
31	5 6 (3)	既存の助成金の考え方では自団体内への支払いが対象外になっている。現場での1番の課題は「課題解決のために赤字でやれ」という姿勢を求められている点が大い。これでは担い手は離れていくばかりである。きちんと仕事として課題解決のために協働できる仕組みづくりを何よりも先に考えてほしい。それが大きな支援になると感じている。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
32	5 6 (3)	文化芸術振興のためには、専門知識を持ち、関係者や一般市民を巻き込みながら、文化芸術活動をオーガナイズしていく専門職員が必須である。開かれた文化芸術を推進するあまり、専門家軽視になってはならない。しっかりと専門教育の実施に加えて、育成した人材が責任を持って活躍できる場を用意する必要もある。中間案の取組事例のなかに、重点取組の●がないのはなぜか。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。 また、重点取組が心の復興であるため、取組事例の記載を全体的に見直し、具体的な事業名を記載するように修正するとともに、個々の取組事例について、重点取組を明示しないよう修正しました。
33	5 7 (5)	①の最後に「整備にあたっては芸術や建築など各分野の専門家の意見を仰ぎながら進めます」と加えてはいかがか。今回の県有施設移転検討にあたっては、美術の専門家が懇話会に不在という状況が生まれたため、今後はこのようなことがないように、書き加えていただくことを検討してほしい。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
34	5 7 (5)	①文化施設は経済性や機能重視で検討されるべき対象ではない。新たなニーズに対応するだけでなく、これまで培った文化的な価値を適切に評価し継承する視点を方針のなかに盛り込んでもらいたい。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
35	5 8 (1)	①宮城県の情報発信がいまひとつ県民に届いていないように感じている。どのようなツールを使い、どのようにして県民の関心を引きおこすようなことをしていくのか具体的に教えてほしい。定期的な更新とともに、その発信がしかるべき団体などに届いて活用できるように理解できる状況か、などの検証と、改善も明記した方が良いと思う。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
36	5 8 (1)	「②文化芸術関係者等」とあるが、誰を指すのか？「方針3」において『文化芸術は限られた人々だけの特別なものではなく、全ての県民のものです。』と記載されているが、それを参考にすると「文化芸術関係者」＝「県民」という捉え方で良いのか？障害者や外国人に対する情報発信をどのように考え、環境整備するつもりかを記載して欲しい。	御意見を踏まえ、「第5章 8文化芸術の情報と発信（1）②」を次のとおり修正しました。 「県民が国や県の文化芸術振興施策等を把握し、活用することができるよう、相談、助言等の窓口機能の充実に努めます。」 また、障害者等に対する情報発信については、今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
37	5 8 (1)	④公共施設の活用、とくに県民会館のギャラリー施設の存在は知らない県民が多く、好立地のわりにあしを運ぶ人が少なく感じている。新しく県民会館ができたから足を運ぶ人が増えるとは考えにくく、現在の好立地を生かす方法も考慮していただきたい。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
38	6 1	推進体制に記載されていることはとても重要だと感じている。この点に関しての実施報告や現状報告、今後の展望を詳細に情報公開して欲しい。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
39	- -	宮城県の福祉領域でのネットワークは醸成されつつあると思うが、芸術家・文化芸術団体、文化施設、企業、教育機関などとの連携はまだ不足していると実感している。分野を横断した具体的なネットワーク形成に参画できることを期待している。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。

番号	章 項目	御意見・御提言の内容（要旨）	宮城県の考え方
40	- -	学校を退職した方など、成熟した専門家が多くいると思う。積極的にボランティアを募れば文化振興の一役を担う集団にもなり得る。どのようにその力を取り込んでいけるか検討してほしい。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
41	2 1 (4) ほか	「未指定を含めた文化財をまちづくりなどに活かしつつ」とあるが、このビジョン案が県民に示された時点では、宮城県美術館の建物の文化的価値を尊重する様子は県側に感じられなかった（宮城県美術館は文化財指定が確実視されるレベルの建築作品）。売却を検討し、機能廃止して作品の保管庫にすることも考えたという知事の記者会見内容も、文化に対する無理解を感じた。 県有施設集約案は、トップダウンで経済的観点から立案されたものと推察されるが、この一件は県の文化財評価や文化政策に対する信頼を揺らがせた。 本県の文化的イメージにとって非常に大きな痛手だと思う。今後の取組みが宮城の文化的イメージの回復につながるものであることを切に願う。 他のページで言えば、22ページの2（1）では歴史的な街並みや文化街区の形成が目標として掲げられ、23ページ（3）では公共の建築物や景観について触れられてはいるものの、一連の移転騒動を経た現在、この記述の実効性に対する信頼が揺らいでいるということを、県職員のみなさまにはご理解をいただきたい。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
42	2 1 (5)	「教育委員会から首長部局へ移管することが可能となりました」とあるが、今回の美術館移転案問題は、首長部局に美術館をゆだねると文化芸術的側面が大きく損なわれる可能性があることを露呈した。この項目は単なる状況説明であることは重々承知しており、移管の是非をここで問うものではないが、首長部局への移管の可能性について危機感を抱いている。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
43	- -	仙台市と音楽ホール問題で折り合いをつけず、2000席級のホールを県と市でそれぞれ整備するような進め方について大きな疑問がある。 河北新報をはじめとしたマスコミや県民からも多くの疑問が寄せられている問題であるが、大規模ホールの需要に対して県民が不安をいだくなか、おのおのが独自に計画を進めている。 県有施設の再編は今後の人口減少社会や税収減を見越して検討されているなか、ホールの数や席数を増やすというのは逆行する動きではないか。 県有施設再編については震災復興・企画部が直接担当ですが、県民会館は消費生活・文化課がこれまで検討を進めてきた案件です。 そのような状態で文化芸術振興ビジョンが作られても、実効性に疑問符がついてしまう。これは県政の信頼の問題に関わってくるので、ビジョンを作ることも重要であるが、同時に、目の前の問題（しかも、今後数十年に渡って影響を及ぼす問題）にもしっかり取り組んでいただきたい。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
44	- -	これからの美術館の運営のあり方についての要望 ①件の枠組みを越えて、多様な団体・人々と連携し、柔軟な発想を持つての運営 ②文化、芸術、交流などの発信拠点 ③建物だけではなく、中庭・アリスの庭・北庭のさらなる活用 ④運営に県民がもっと関わることができる開かれた体制	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。
45	- -	県民会館とNPOプラザの建設が予定されている医療センター跡地は、安心・安全が保証されているのか。活断層のすぐそばの地を選んだのか。建設コストや液状化の心配もある。また、少子高齢化で各自自治体の財政が逼迫している中、県と仙台市で大型の音楽ホールを別々に作るのは無駄のような気がしてならない。第5章2（2）にあるように、「市町村と県のパートナーシップによる連携の強化」を強く望む。	今後の具体的な取組に当たって、参考とさせていただきます。